米子市埋蔵文化財センターたより

第５３号　　２０２４年６月

日南町　大原川平山たたら跡の発掘調査の開始

当財団では、砂防堰堤工事に伴い日南町下阿毘縁に所在する大原川平山たたら跡の発掘調査を５月から実施しています。

遺跡は日野川の支流である印賀川上流の左岸に位置し、北から南へのびる丘陵上に立地しています。

今回の調査では、これまでに中世の製鉄炉１基と製鉄の際に生じた不純物を廃棄した排滓場１ヶ所、昭和の木炭窯１基を検出しています。

製鉄炉と排滓場の調査はこれからですが、木炭窯の調査は６月下旬に完了しましたので紹介します。

木炭窯は、平面形態が円形を呈し、内法の直径は 2.6～2.9mを測ります。本来はドーム形をしていましたが、天井は崩落していました。この地域は豪雪地帯ですので、最終操業後の冬には天井が崩落したものと考えられます。

木炭窯には、壁に石を積み上げているものもありますが、本窯は石を積み上げてはおらず、周辺の真砂土を盛り上げただけの単純な構造となっており、天井も崩落した塊から真砂土でつくられていたことがわかりました。

窯の底面は粘土を貼り付けたうえに叩き締め、たたき土間のように硬く締まっており、奥側から窯の入口に向かって緩やかに傾斜しています。また、窯の底面の下には窯内の保温と地下からの湿気を防ぐために、地下構造として上下２層にわたって叩き締められた炭が敷き詰められていました。

窯の焚口はハ字形に開き、幅は奥側で 0.55m、手前側で 1.1m、高さは 0.75mを測ります。また、両側の壁には崩落を防止するために石を積み上げています。

窯の操業時期は明らかではありませんが、昭和３０年代頃と考えられます。地元の方によれば、かつては周辺にこのような木炭窯があちこちにあったそうです。（高橋）

木　炭　窯

発　掘　調　査　情　報

－　旧海軍美保航空隊飛行機用掩体　－

令和６年の２月から５月にかけて、米子市大篠津町に所在する飛行機用掩体の試掘調査を実施しました。飛行機用掩体とは、敵の攻撃から飛行機を守るための防空壕で、アジア太平洋戦争の末期には日本各地に 1000 基以上の掩体が造られました。終戦時には、美保基地内にも 63 基あったとされていますが、現在では基地内に２基、基地外に３基の計５基のみが現存しています。今回調査を行ったのは、令和４年度に市の史跡に指定された１号掩体です。

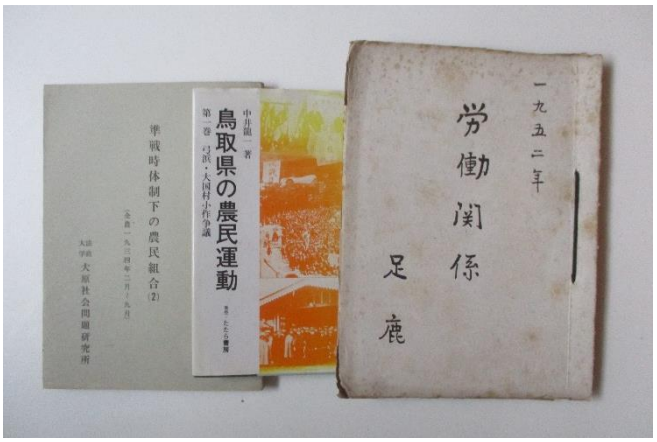
１号掩体は、現在では内部の大半が砂で埋もれているため、床面の構造が分かっていませんでした。今回の調査で砂を除去すると、底面はコンクリート敷で、側面には排水溝が設置されていることが判明しました。この掩体から滑走路へ向かう誘導路も調査しましたが、すでに路面に敷かれていたコンクリートが除去されており、明確な範囲を知ることはできませんでした。しかし、誘導路を作る際に形成されたと見られる硬化面が残っていたことから、当時の誘導路は、掩体から滑走路に向かって真っすぐ伸びていたと推測されました。（米子市文化振興課　佐伯）

旧海軍美保航空隊飛行機用掩体

整　理　室　た　よ　り

－　足鹿覚寄贈資料の整理　－

埋蔵文化財センターでは、個人から米子市立山陰歴史館へ寄贈された資料も整理し、保管しています。現在は、米子市出身の政治家・農民運動家である足鹿覚氏のご家族から寄贈された同氏の収集資料の整理作業を行っています。寄贈された資料は、農政や農民運動関係の書籍や雑誌、この他にも書簡、写真などが数多くあり、今後、研究者への研究資料として供するため、リスト化の作業を行っています。書籍と雑誌だけでも約 900 冊あり、すべての資料のリスト化が完了するにはまだまだ時間がかかりそうです。（高橋）



足鹿覚寄贈資料

遺跡シリーズ　諸木遺跡　（もろぎいせき）

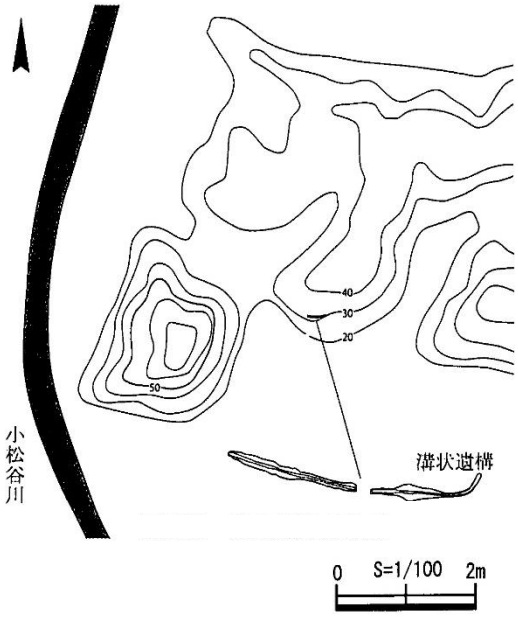
諸木遺跡は、南部町諸木に所在し、日野川西岸の越敷山北西麓の裾部に広がる台地に立地しています。台地の西側には日野川の支流である小松谷川が北流し、その周囲には沖積地が広がっています。

宅地造成工事に伴い、昭和 48 年に会見町（現南部町）教育委員会が諸木遺跡発掘調査団を組織し、発掘調査が行われました。

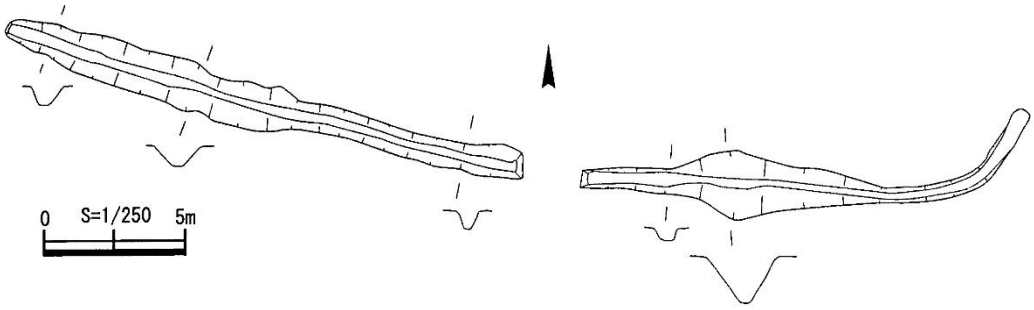
調査の結果、台地先端部の緩斜面で弥生時代前期後葉の土器を伴う溝状の遺構が見つかっています。総延長は 36mで、東端が湾曲しています。幅は１～２ｍ、深さは１～1.5ｍを測り、溝の断面の形はＶ字形を呈しています。溝状遺構の東端の湾曲状況から、溝状遺構の北側を区画するために掘られた濠と考えられます。中央やや東寄りに溝が途切れた部分があり、この部分が意図的に掘り残されていたとすれば、入口として機能していたと考えられます。

それでは何を区画していたのでしょうか。溝状遺構の北側では竪穴建物跡などの遺構は見つかってはおらず、溝状遺構から出土した土器の量は少なく、石器は出土が報告されていません。近くに生活の場があるのならば、溝状遺構内に多量の土器や石器が廃棄されているはずです。生活をしていた場所は、溝状遺構よりも離れた場所にあったと考えられます。

鳥取県内では、大山北西麓と南部町域を中心に弥生時代前期後葉の環濠が見つかっています。諸木遺跡の溝状遺構は、鳥取県内で見つかっている他の環濠よりも時期が古くなる可能性があり、農耕社会の成立を考えるうえでは、たいへん貴重な資料です。



諸木遺跡の地形



環濠と考えられる溝状遺構

出典　『新鳥取県史』考古１

センター・資料館日誌

４月 22 日（月）島根県立古代出雲歴史博物館の広江氏と田村氏が尾高城跡出土遺物の調査で来館。

４月 26 日（金）米子南高校の遠足で、生徒が来館。

４月 28 日（日）つつじまつりのため、臨時開館。

５月　２日（木）尚徳小学校遠足、ラリーポイントとして利用で来館。

５月　２日（木）五千石小学校遠足、ラリーポイントとして来館。

５月　９日（木）鳥取大学高田教授と島根大学岩本准教授が普段寺古墳群出土資料の調査で来館。

５月 12 日（日）米子市体力づくり歩け歩け大会のため臨時開館。

５月 22 日（水）～８月 26 日（月）
米子市福市考古資料館企画展１「遺跡から見つかった動物たちが集まりました。」を開催。

６月５日（水）・６日（木）
岡山県古代吉備文化財センターの竹田氏が上福万遺跡出土の石鏃の調査で来館。

６月６日（木）島根県立古代出雲歴史博物館の久保田学芸員が石州府古墳群出土の須恵器と上淀廃跡出土の瓦の返却で来館。

６月 13 日（木）島根県立古代出雲歴史博物館の中川学芸員と松尾学芸員が目久美遺跡と大谷遺跡出土の絵画土器の借用で来館。

６月 22 日（土）第１回史跡ガイドウォーク「尾高城跡」を開催。

６月 26 日（水）～28 日（金）
米子南高校生徒３名がインターンシップで来館。

編 集 後 記

今年は、春先から日によって気温差が大きく、発掘調査を開始した５月後半から６月上旬までは平年よりも気温が低く、比較的過ごしやすかったですが、６月中旬からは平年よりも気温が高い日が続いています。

発掘調査現場のある日南町下阿毘縁は標高 520 mの高原地域にあり、米子市内よりも２～３度くらい気温が低いですが、それでも日差しは強く、体感温度も高く、熱中症にならないように最善の注意をしながら発掘調査をしています。暑さはこれからが本番で、今年は秋でもかなり気温が高いと予報されており、今から早く涼しい秋が訪れてくれないかと待ちわびいています。

発行日　令和６年６月２８日
発行者　米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電　話　０８５９－２６－０４５５
Ｅメール　yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp